

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の金製錬遺物の発見について

○内容

- ・一乗谷朝倉氏遺跡で過去に出土した遺物の中に、「金」が付着した土器が発見された。分析調査は、山梨県立博物館の協力を得て実施。
- ・「金」が付着している土器から不純物も同時に検出されたことから、金鉱石を製錬して「金」を抽出していたことがわかった。

○意義

- ・戦国時代の「金」生産の多くは、砂金から「金」を抽出していたが、金鉱石から「金」を生産していたのは、現在判明している戦国大名では甲斐武田氏と朝倉氏だけである。
- ・金鉱山開発に朝倉氏が関わっていた可能性がでてきた。

○今後の予定

・公表

平成24年11月13日(火) 14:00～

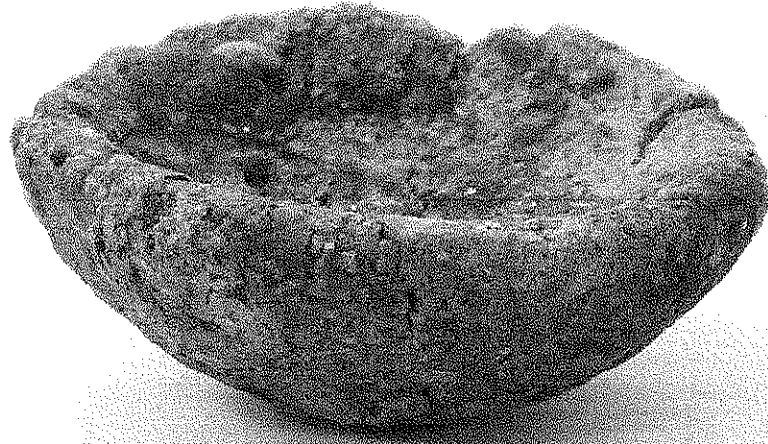
・展示

(期間) 平成24年11月15日(木)～12月11日(火)

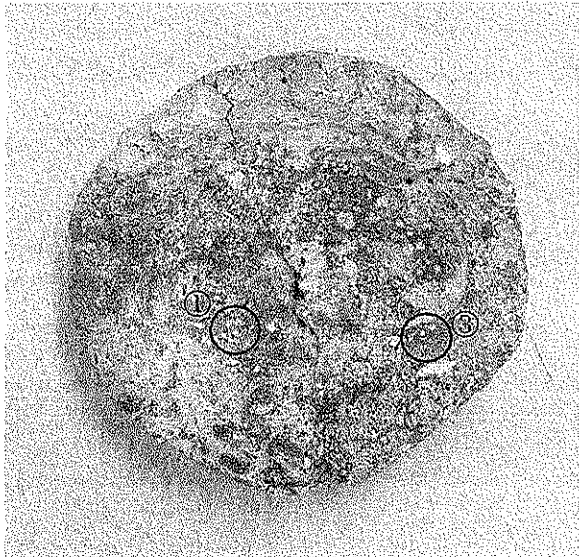
(場所) 一乗谷朝倉氏遺跡資料館

(内容) 第3回逸品展「戦国城下町一乗谷の鋳物師と金工師」

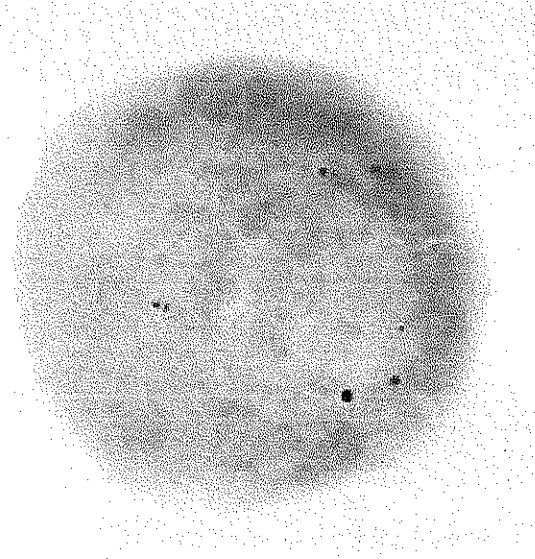
(参考) これまで、「金」生産関連遺物は、全国で19か所発見されている。そのうち9遺跡(山梨県内等出土遺跡8か所と当遺跡出土遺物)が金鉱石関連遺物である。



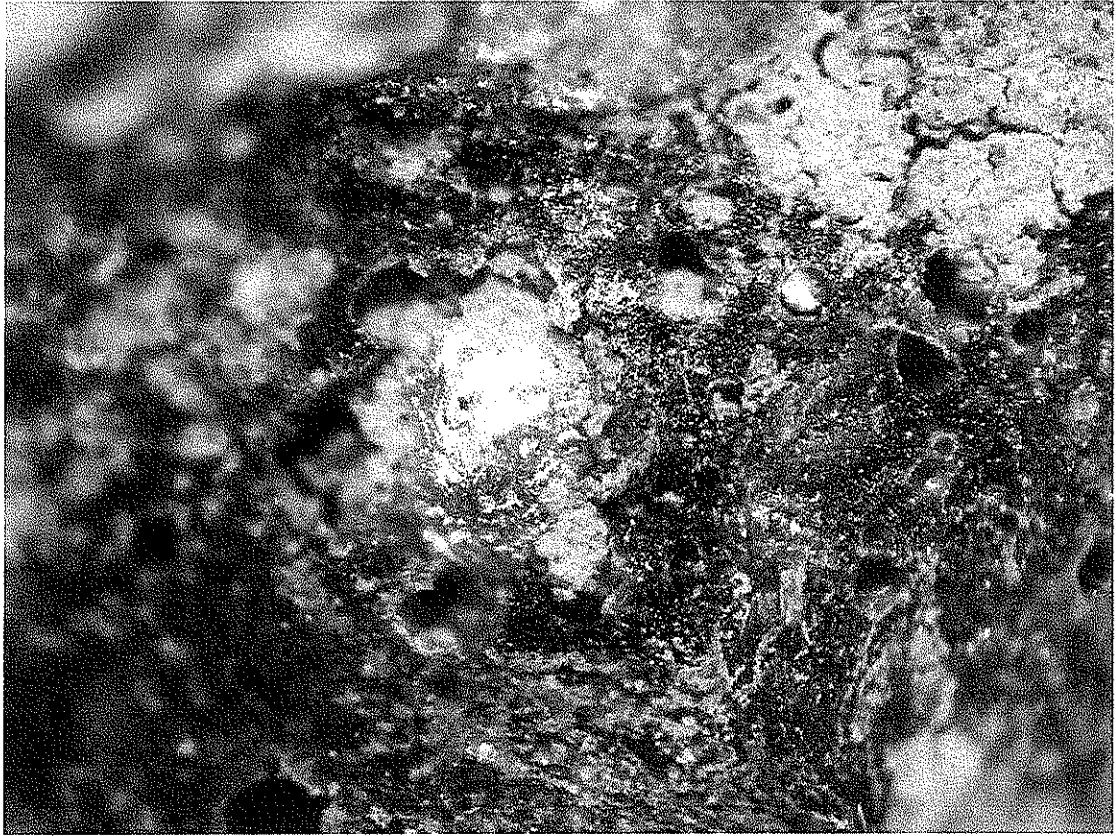
科学分析した第 36 次調査出土の坩堝（口径 3.8cm、器高 1.6cm）



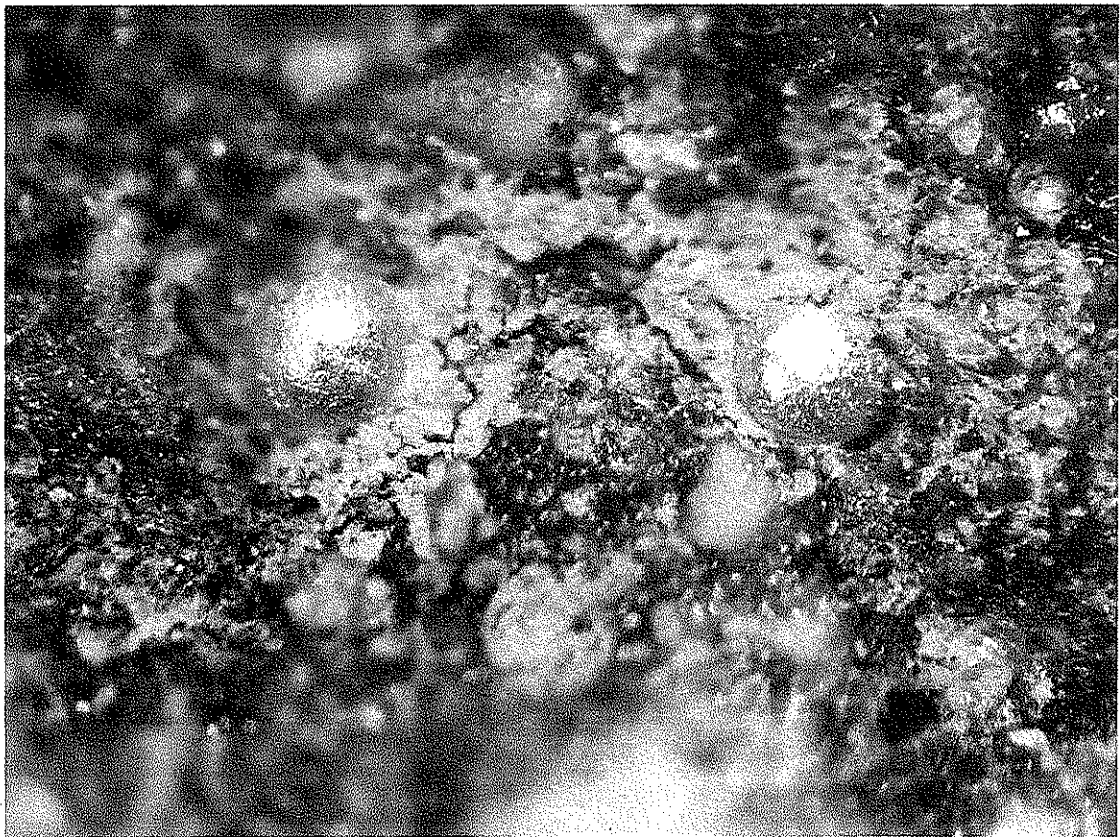
内面写真



エックス線透過撮影写真



顕微鏡写真①



顕微鏡写真②

0.3mm